

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270700303		
法人名	株式会社 和芳		
事業所名	グループホーム双葉		
所在地	千葉県銚子市松本町2-810-10		
自己評価作成日	平成23年11月13日	評価結果市町村受理日	平成24年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成23年12月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員で家庭的で穏やかに過ごせる施設作りに取り組んでいます。ホーム内は全面バリアフリーになっていて、車椅子を使用する利用者が増えてきていますが、十分に安心して過ごせる介助スペースを確保しています。空調面は床暖房やエアコン等を設置し、安全快適に暮らせる環境作りに配慮しています。また、協力医療機関との連携を密にし、随時速やかに対応できるように態勢を築いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム双葉」は施設を開放し、地域住民と交流を深めながら施設理解の促進と連帯強化に努めている。また、施設の特性を活かし、市との信頼関係を構築しながら、地域問題解決に取り組んでいる。同法人が運営する他のサービスとの連携を密にし、入居者や家族の要望・ニーズに合わせた柔軟な対応に取り組んでおり、入居者・家族から好評を得ている。併設の小規模多機能型居宅介護施設とは交流が盛んに行われていると共に、地域ボランティアを積極的に受け入れており、入居者の生活活性化が図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティングで、事業所の基本理念に基づいた支援、介護を実践しているか確認しあっている。又、公的機関主催の認知症ケア会議等に出席している。	入居者の主体性の尊重と地域交流を目指した施設独自の理念を掲げている。また、毎朝理念を唱和すると共に、会議・研修等で理念の周知・徹底を図り、職員全員が共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	双葉ニュースを隔月発行し地域に回覧したり、ボランティアの受け入れやハーモニカ等の演奏など地域の方々の協力を受けながら交流を深めている。又、住民の方々との庭先での挨拶、会話を通じコミュニケーションをはかっている。	近隣住民が気軽に立ち寄れるよう施設を開放していると共に、日頃から挨拶を交わす関係が築かれている。また、施設季刊誌「双葉ニュース」を配布し、施設の理解促進を図っている。その他にも、クリスマスイルミネーションの飾り付けや、地元太鼓連による演奏会を開催する等、地域ボランティアの受け入れを積極的に行い、地域交流の促進に努め、好評を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への対応方法について家族と連絡調整を図っている。又、ボランティアや生徒や研修生の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催。会議では、利用者状況の説明、行事やボランティア受け入れ等の報告及び意見交換や勉強会を行っている。又、外部評価結果について書面により報告し、問題点があれば協議する場ともしている。	入居者・家族・自治会員・民生員・職員を構成員として、2ヶ月に1回開催されている。会議では施設活動の報告や意見交換を行うと共に、外部評価結果報告・問題点の検討等を行い、サービスの質の向上に努めている。また、地域からの要望や問題点等の協議を行い、地域との連携を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	銚子市高齢者福祉課が開催する認知症ケア会議等で、他事業所等と情報交換したり、事例を通じて対策を協議したりし、良好な協力関係を築いている。	市とは、日頃の業務や入居者の相談等を通じてサービスの質の向上における協働体制が構築されていると共に、市主催の会議に参加し、問題解決に取り組んでいる他、他事業所との情報交換等も行われており、市を中心に外部との連携を図っている。	

【千葉県】グループホーム双葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	千葉県主催の研修会への参加や、銚子市高齢者福祉課の意見を聞きながら、身体拘束の具体的な例を全職員が理解し業務に活かしている。	身体拘束関係のマニュアルが整備されていると共に、内部・外部問わず、研修に参加しており、身体拘束排除に向け取り組む。玄関は日中は施錠せず、センサーチャイムを活用し、安全確保をした上で、入居者の自由を束縛しないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加を積極的に推進している。具体的な虐待例を把握し、虐待のないよう全職員が支援対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	千葉県の開催する研修会や、公的機関開催の講習会等に参加し、その必要性や活用法を学んでいる。成年後見人を介しての利用や支援実績もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時、各専門スタッフが利用者や家族にわかりやすいように説明し、不安や問題点等を尋ね、納得が得られるまで丁寧な説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けている。利用者の意見、不満を個別に話し合う機会を設けたり、家族来訪時に要望、苦情等を聞き、運営や支援に反映させるようにしている。他事業所のケアマネ等へ相談を促すなど運営に反映させている。	意見箱の設置やアンケートを実施すると共に、家族の面会時や電話連絡時に意見・要望を直接確認している。挙げた意見・要望においては会議等で周知・検討し、適切な対応に努める共に、サービスの質の向上・適切な運営改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回運営者を交えての会議を開催し、意見や提案を直接話す機会を設け運営に反映させている。	定期的に会議を開催し、職員の意見・提案の確認を行っていると共に、個別面談を通じて、個々の思いや意見を把握している。また、随時、管理者が職員に声掛けをしており、意見を言いやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度も介護職員処遇改善助成金を申請し、介護職員の収入増を図った。又、職員が働きやすい環境整備にも努めている。		

【千葉県】グループホーム双葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	通信教育、各種講座への受講支援、資格取得支援の充実を図っている。地域で開催する研修や毎月1回実施する院内研修に参加し介護の質の向上に努めている。又、研修報告を行い情報の共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域部会やネットワークを通じて勉強会に参加し、意見交換や困難事例の問題等を共有しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望に沿えるよう、話しやすい環境づくりを心掛けている。相談時から利用にいたるまで、本人の困っていることや不安など穏やかな態度で傾聴し、不安解消を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来訪時や電話相談時に、全職員が真摯に時間をかけて傾聴し、困難事項や今一番求めていることなどを受けとめるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に提供票等を参考にしながら、本人家族が何を必要としているかを見極め、必要に応じて他のサービス利用をアドバイスできるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の後片付け、洗濯物をたたむなど、一緒に作業しながら日常生活の中で、こまかい相手への思いやり、各自の思いに触れ、時に学び、時に支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援困難時、家族の方にもホームに出向いていただき介護について協力していただいている。第三者を交えた家族会を開催している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人の訪問も気軽にできるよう施設を開放している。家族との外出、外泊は自由となっており本人と家族との関係継続にも配慮している。	契約時に、入居者・家族に馴染みの場所や人々の把握をしており、生活層に添った支援を心掛けている。施設を開放することにより、入居者の馴染みの人が来訪しやすいよう配慮している。また、馴染みの場所への外出支援等も実施されており、入居者の生活の活性化を図っている。	

【千葉県】グループホーム双葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係や力のバランスを生かすようにして、お互い支えあえるよう配慮している。又、世話役の得意な方にうまく力を発揮していただくよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時もお見舞い、訪問したりして家族の相談等に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを活用して、本人の意向を的確に把握できるよう、全職員で情報を共有して検討している。日々の体調や気持ちの変化に合わせた意向の汲み取りができるよう、家族とも連携しながら対応を検討している。	契約時に、本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認している。また、入居者との日々の会話や生活の中から、意向・趣味・嗜好等を汲み取っている。挙がった情報においては、記録や会議を活用して、職員全員で共有するよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から今までの経験や生活歴を把握し、本人の馴染みの暮らし方を理解するように努めている。又、これまでのサービス利用の経過等を把握したうえで、その人らしい暮らしや、尊厳が保てるように支えていく努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態、現状で保有している心身の能力を客観的に把握し、本人が暮らしやすいように支援できるよう、常に職員間で情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に、本人、家族等の思いや望みを把握し、可能な限り取り入れるようにしている。介護計画は職員全員で意見交換し、本人本位に立って、計画作成担当者がまとめ作成している。	本人・家族の意向や生活状況を基に職員全員で意見を出し合い、介護計画を作成している。定期的な目標の達成状況の確認・評価を行い、必要に応じて見直しを行っている。職員は入居者・家族とコミュニケーションを図りながら、意向に沿った介護計画を作成できるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づきケアを実践し、結果や気づき、工夫を個別記録に記入している。それを全職員が目を通し、日々新しい情報を共有しながら支援に活かしている。		

【千葉県】グループホーム双葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々の要望に対し、各分野からの専門スタッフのアドバイスを受け柔軟な支援に努めている。隣接する小規模多機能ホーム利用者との交流や共同支援により、生き生きとした生活が送れるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の生活の安定を支援できるよう、必要に応じてボランティア、民生委員、警察、消防、教育機関等の協力が得られるように働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が希望するかかりつけ医への受診には、職員と家族協力して適切な医療を受けられるよう支援している。受診事実を記録し、家族へ随時報告するようにしている。必要に応じて管理者と共同してかかりつけ医への相談を行うなど、適時に医療とスムーズに連携できるよう支援している。	希望の医療機関への受診が可能となっており、必要に応じて職員が通院の付き添い支援も行っている。看護師職員の指示のもと、適切な健康管理・服薬管理が行われている。また、協力医療機関とは、緊急時に備えた24時間体制での連携が図られており、手厚い協力体制が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーション双葉との協働により、利用者の変化を把握し、看護、介護に活かしている。又、地域の看護職員との連携もとれていて気軽に相談できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携体制は整っている。医療機関と今後の対応に備えるため情報交換を欠かさないようにしている。又、安心して治療に専念できるよう態勢を構築、入退院に支障のないようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて、家族、医師、職員、看護師で話し合いケア方針を共有している。日常生活での変化や体調に注意し、機能低下に対応した態勢を築いている。又、終末期に関して方針の説明、同意書を受領し、介護計画書を作成する。	重度化・終末期において施設としての指針が明文化されており、同意書を交わしている。重度化・終末期においては、本人・家族の意向を確認しながら、安心で納得の得られる支援方法の検討を行っている。また、協力医療機関との連携により、ニーズに応じた適切な支援が行えるよう協力体制を整えている。	

【千葉県】グループホーム双葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変患者対応、事故発生時対応等のマニュアルを作成済み。日頃から利用者の身体的特徴の把握、事故対応等の職員研修を実施。又、応急手当、初期対応の訓練を定期的実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成。避難経路図を掲示し、いざという時に備えている。消防避難訓練を年2回実施。特に、夜間人手不足時の対応に近隣の協力が得られるよう訪問し協力依頼している。運営推進会議メンバーへの協力依頼やニュース回覧を活用している。	緊急時・災害時マニュアルが整備されていると共に、消火器・自動通報装置等が設置されており、災害時・緊急時の対策がなされている。年2回、消防署立会いのもと、消防避難訓練を実施しており、避難経路や避難方法の確認を行っている。また、運営推進会議を活用し、地域住民との災害時・緊急時における協力体制の構築を図っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性や人格を尊重し、誇大な言動や非現実的な言動であっても、穏やかな心で傾聴し「寄り添う介護」を心掛けている。個人のプライバシーを尊重し、プライドを傷つけないよう、無断で侵害することのないよう周知している。	プライバシー保護・接遇マニュアルが整備されていると共に、研修を実施し、全職員が意義を理解している。職員は、丁寧且つ、入居者の自己決定を促す言葉かけに配慮し、その人らしい生活を支援している。個人情報保護についての研修・会議等で周知・徹底を図っており、職員全員が制度や重要性について理解し、個人情報保護に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者への言葉かけに心がけ、希望の表出には静かに傾聴し、気軽に何でも話せる環境づくりを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に傾聴し、優先順位を見極め、十分なコミュニケーションを取りながら、日々の生活や時間を大切に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力いただき、本人の好みのものや衣類を用意していただいている。困難な時は職員が用意したりして希望に沿えるよう支援している。定期的な美容師の来訪で身だしなみも整っている。		

【千葉県】グループホーム双葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一日の中で大切な時間であり、体調が悪くない限り同じテーブルで会話をしながら楽しく食事が摂れるよう支援している。食事前後のテーブル拭きやトレー拭き、下げ膳など、可能な方(数人)は楽しそうに行っている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備から片付けまで共同で行っている。法人の管理栄養士が入居者・職員の意見を取り入れながら献立を作成しており、入居者の嗜好・栄養バランスに配慮された食事提供がなされている。また、外食会や手作りおやつ等を実施しており、食に対するの楽しみを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を把握し、少ない場合は間食等で補うなど、本人が摂取可能な限り水分補給できるよう配慮している。他事業所の栄養士の支援によるバランスの取れた献立を、介護者は利用者の能力、好みにあわせ食べやすいよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、義歯の洗浄を行い、口腔内の清潔保持に努めている。飲み込み悪い利用者が増えているので誤嚥性肺炎の予防に取り組んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員が一人ひとりの排泄パターンを把握し、習慣を生かし気持ちよく排泄できるよう誘導助助を行う。失禁の対応は、不安や羞恥心への配慮をしプライバシーを守りながら支援している。	排泄チェックリストを活用しながら一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切な声掛けやトイレ誘導を行い、パットやオムツの使用頻度を減らすケアに取り組んでいる。また、食事の工夫や運動を取り入れる等、自然な排泄習慣の継続も図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士によるバランスの取れた食事、こまめな水分補給、毎日牛乳を飲む習慣や、体操や散歩、身体を動かす働きかけをしながら便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介護浴槽を導入し、浴室を改造。以前より一人ひとりに合った入浴ができています。入浴は本人の希望や状況にあわせ無理なく柔軟な対応を心掛けている。入浴を拒む場合は、声かけなど工夫して入浴する気分になるよう支援している。	入浴は毎日実施しており、入居者の希望・体調等に応じて、柔軟に支援している。機械浴槽が導入されており、入居者の身体能力に合わせた入浴が可能となっている。必ず、入浴前に体調チェックを行い、身体に負担のない入浴及び異変の早期発見に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールリビングにソファを設置し、季節に合わせてゆったりと休息、安眠ができるように支援している。又、適時に利用者の不安に耳を傾け、安心して眠れるように支援している。		

【千葉県】グループホーム双葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	高齢者は複数服薬することが多いため、必ず処方箋に目を通し、服薬の目的、副作用、用法、用量について内容を把握して服薬支援に努めている。また、服用後に変化があるかどうか気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活を尊重し、その中で食事の手伝い、洗濯物たたみなど個々のできる範囲で楽しみながらできるように支援している。又、季節の行事や花見など計画し、楽しさを共有している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は体調に考慮しながら散歩に同行。希望があれば家族と協力して買い物等の外出ができるよう支援している。又、お花見等季節に応じた戸外での楽しみなどを支援している。	天候や入居者の体調・希望に応じて、日頃から、散歩等の外出を実施している。入居者の希望を確認しながら外出を行っており、入居者の生活の活性化に繋げている。また、家族を交えての外出等を実施し、家族間で楽しみが共有できるよう工夫している。その他にも、併設の小規模多機能ホームとの交流が行われており、外部の人との交流を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力量に応じ、お金を所持したり使えるよう支援している。希望に応じて買い物に同行、本人がお金を使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内にピンク電話を設置。本人の意思で電話することができる。又、ポストを設置してあるので代理投函ができるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全面バリアフリーで玄関、廊下、トイレ等ゆったりした設計である。トイレは職員が頻繁に見回り、定期的に除菌、消毒、清掃を実施している。ホールは床暖房、採光も明るく上部窓の開閉により通気性を保っている。キッチンからお互いの顔が見える。ソファも配置しくつろげるよう工夫している。	施設内はバリアフリーとなっていると共に、十分な介助スペースが確保されており、入居者の安全面に配慮している。施設内は明るく開放的で、温かみのある施設づくりがなされている。リビングには、ソファ・テーブル等が設置されており、思い思いにくつろげるよう配慮している。	

【千葉県】グループホーム双葉

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、テーブル位置を変えたり、ソファ、椅子の配置等工夫して、利用者が一人になったり、気の合う者同士で自由に過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望により、馴染みの家具や身の回り品、衣服の持ち込みで今までの生活の継続ができるようになっている。又、全居室にエアコンを設置、過ごしやすい空調管理を心掛けている。	入居者の希望に応じて馴染みの家具・寝具等を自由に持ち込むことが可能となっており、生活暦に合わせた生活環境の整備が図られている。全居室にエアコンが設置されており、適切な空調管理がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーとし、手すりも設置。夜間はフットライトがあり、トイレ誘導も安全、スムーズに行えるよう配慮している。できるだけ自立した生活が送れるよう改善工夫している。		